

2025年9月16日
第73号

発行責任者 土多松雄

編集責任者 市川康世

mail info@t-kurokyo.com

http://www.toshima

-kurokyo.org

豊島区労働組合協議会

〒171-0022

豊島区南池袋2-6-8-401

TEL 03-3988-7091

Fax 03-3981-9168

豊島区労協 ニュース

秋季闘争と 区労協大会を成功させよう



区労協議長
土多松雄

この夏は記録的な暑さに襲われました。組合員のみなさんも酷暑の中で大変な思いをされたのではないのでしょうか。9月に入り少しは過ごしやすくなってきましたが、本当に温暖化対策を進める必要を感じます。

賃上げが物価に追いつかず

今春闘の結果は国民春闘共闘集計では単純平均で9280円、連合の中小企業集計で1万2361円、東京労働局集計で1万5891円などといずれも昨年度を上回る到達となりました。春闘期の賃上げを背景に、8月7日には国家公務員賃金について人事院勧告が出され、平均で1万5014円(3.62%)と昨年を上回る勧告がありました。そして、8月4日には中央最低賃金審議会の答申が出されました。全国平均で過去最大の6%・63円となり、始めて都道府県全体で1000円を超えました。これにより東京の最賃は10

月より1226円となります。10月には東京都と23区の職員賃金についての人事委員会勧告も予定されています。

このような状況のもとで、いよいよ秋末年末闘争がスタートします。すでに東京土建では組織拡大月間が始まっています。各組合でも秋の組織拡大を成功させましょう。区職労など公務部門はこれから賃金闘争の本番を迎えます。要求実現と組織拡大を粘り強く追及し闘っていきましょう。

70回定期大会を運動前進の中で成功させよう

11月9日(日)に豊島区労協の第70回定期大会を開催します。人であれば70歳は「古稀」といわれ長生きを祝う言葉ですが、区労協も結成から70年間バトンを繋いできたわけで、この節目の大会を祝いたいと思います。70年の間には大変な苦勞もあつたと思います。80年代からの新自由主義による「規制緩和」の政治が進められ、労働法制度も後退させられました。80年代の終わりには総評などナショナルセンターの解散と再編もありま

した。95年に決定された財界方針「新時代の日本の経営」により、労働者派遣法をはじめ労働法制度の大改悪が進められ、正規労働者の激減と非正規労働者の激増の流れがつけられ、現在に至る「失われた30年」という状況となっています。現在も労働法制度の改悪が進められようとしており、労働者への攻撃は止むことがありません。幾多の攻撃や困難を抱えつつこの組織をつなげてきた区労協運動を強化し、さらに前に進めていきましょう。

激動の中の大会

昨年の定期大会は衆議院選挙後の与野党逆転のもとでの大会でした。そして、今回は夏の参議院選挙でも与野党逆転という状況をつくりだしました。

このように、激動する政治情勢のもとで、異常な物価高から暮らしを守り平和な社会の実現に向けて、区労協第70回大会を成功させましょう。みなさんのご協力をお願いします。

当面の予定

第10回区労協常任幹事会

9月25日(木) 18時40分
東部区民事務所集会室2

原水爆禁止世界大会

豊島代表団報告集会
9月26日(金) 18時30分
南大塚地域文化創造館

東京地評定期大会

9月28日(日) 10時
すみだリバーサイドホール

豊島原水協

6・9署名行動
10月6日(月) 17時
駒込駅

労働運動交流集会

10月11日(土) 13日(月)
ビジョンセンター東京京橋

東京地評全労連協議会総会

10月19日(日) 10時30分
全労連会館

豊島区労協第70回定期大会

11月9日(日) 13時30分
あうるすぽっと会議室B

教科書を考える豊島区民の
会総会

演劇案内

青年劇場第135回公演

「わたしは、ダニエル・ブレイク」

主役が仕事をとめられた主人公が社会保障を利用しようと手続きするが、複雑で官僚的な制度のために一向に給付を受けられない。ついに彼は自身の尊厳をかけて行動に出る。現代に通じる題材です。

申し込み先

TEL 03-3352-7200 ※申し込みの際に「豊島区労協のチラシを見た」と申し出るとチケット代は500円引きで5000円となります。

原水爆禁止2025世界大会

2025原水爆禁止世界大会が8月7日～9日、長崎市内で開催され、豊島代表団として9名(新婦人・土建・区職労・平和委員会・共産党区議団)が参加し大会成功に奮闘されました。東京土建豊島支部からは2名が参加しました。感想文が寄せられましたのでご紹介します。

2025原水爆禁止世界大会に参加して

東京土建豊島支部 桑山浩司

以前から参加を考えておりました原水爆禁止世界大会に参加させていただきました。初日のバスで、東京原水協か



ら参加の学生さんのお話を伺う機会がありました。平和への思いや様々な知識に驚かされ勉強させていただきました。式典では被爆者の方々の体験談を生の声で聞かせていただきました。戦後80年、当時の体験を語れる方々も高齢で、当時を思い出し言葉が詰まらせながらお話しされている姿を見てとても心苦しくなりました。原爆について今後もっと学んでいくべきだと初日から考えさせられました。夕食時は豊島平和委員会の仲間のみなさんと交流をし、部屋で報告会、打合せをして初日を終わりました。

二日目は【動く分科会】を選択しました。長崎駅からバスで佐世保へ行き、佐世保湾をフェリーで見学しましたが、一帯が軍艦、自衛隊、米軍施設で埋め尽くされていました。佐世保は米軍基地の数では、沖縄、神奈川県に続いて3位で、アメリカ力艦船が母港となっているのは横須賀と佐世保の二か所とのことです。フェリーを降りた時にガイドさんが海の中にクロダイの群れがいると教えてくれました。『他にもたくさん魚がこの港にはいるんですが漁業できない

【組合紹介】

地域とつながる「住宅デー」 東京土建豊島支部が区内6会場で開催

東京土建豊島支部では、今年も恒例となっている「住宅デー」を区内6会場で開催しました。この取り組みは、地域の建設労働者でつくる東京土建一般労働組合が1978年から毎年続けているもので、今年で48回目を迎えました。豊島支部では、6月1日(日)と8日(日)の2週にわたり、3会場ずつ分かれて開催しました。

住宅デーは区内公園を中心に開かれ、地域の暮らしに密着した場として親しまれています。地域の職人が住宅相談や住まいの改善に関するアドバイスを行い、住宅リフォーム助成制度など地域で活用できる制度の情報提供も行いました。地域との信頼関係を築くとともに、住まいの困りごとと寄り添う場として好評を得ています。

さらに、包丁研ぎやまな板削り、子どもたちに人気の無料木工教室など、暮らしに役立つ企画や親子で楽しめる催しも各会場で実施されました。木工教室では、子どもたちが釘打ちや木の工作に挑戦し、職人の技に触れる貴重な体験となりました。また、一部の会場では飲食コーナーやバザー、ヨーヨー釣り、パターゴルフなども開催され、多世代が集う地域の“おまつり”としてにぎわいを見せました。「信頼できる職人に相談できて安心」「こうした地域のあるのは心強い」との声も多く寄せられました。東京土建豊島支部は、これからも地域に根ざした建設労働組合として、住まいと暮らしを支える活動を大切にしながら、こうした取り組みを継続してまいります。

んよ・・・』と話していたのが印象的でした。その後、浦頭の佐世保引揚援護局の資料館を見学しました。戦後海外から約629万人が日本に引揚げ、うち1396468人が上陸された場所です。模型や資料で当時の状況の説明を聞き学びました。当時の佐世保引揚援護局となっていた敷地は現在の「ハウステンボス」だそうです。長崎に戻り【原爆資料館】で、展示物、映像、資料を拝見しました。話でしか聞いたことのなかった被害状況や悲惨さを資料館で目の当たりにし、思っていたものを遥

かに超える衝撃を受けました。核兵器がいかに恐ろしいものであるかということ、そんなものが日本に二つも落とされたこと、罪のない市民がどれだけ苦しみ、今なお苦しみ続けている方がいること。今まで以上に戦争の恐ろしさ感じました。最終日、開会総会や悪天候により時間が限られていますが、豊島平和委員会の平田さんに爆心地から500mの【城山小学校】と【平和公園】を案内していただきお話を伺いました。今回経験を語ってくださった長崎の被爆者の方々や戦争経験を語ってくれていた

祖父母の思いなどは、次世代に繋げていかなければならないと改めて強く感じました。今回聞けたお話はごく一部かもしれませんが、この機会に生の声を伺えた貴重な経験を無駄にしないよう、私自身、子供達にも戦争への学びの機会を作っていきたいと考えます。


